

日本の印象

初めて会う方から「日本はどう思いますか」と質問されることがよくある。場合によっては「日本の女性」や「日本の学生」などにもなるが、いずれにしても外国人である私の外見を意識して、このような質問を会話の糸口に選ぶのである。



南山大学学長 ミカエル・カルマノ 18

ろう。私は、相手の顔を見る舞うのは大事だからであって、毎回違うことを答えるる。

ようにつとめている。日本 生活が一番長いので、日本のことを普段意識して でも記憶に残っている。例 いないが、外国人らしく振 えば鎌倉で初めて目撃した 来た外国人の問題だけでは

驚愕 同じ髪形、制服、顔つき



鎌倉の妙本寺で初めて見た剣道

髪、同じ制服、目が細い同じ顔つきと、全く同じ格好 時間がかかる。その反面、 「曖昧」という評判の日本 語には、勉強し始めた頃、 何度も「何故?」と嘆か された。例えば、物事を区別 する単語についてである。 同じ「water」なのに、何 故水と湯とを区別する必要 があるのか。同じ親を持つ 人間を何故名前ではなく、 「お兄さん」と呼ばなければ ならないのか。歳は一つ しか違わないのに、何故一 生涯「先輩」と話しかける 必要があるのか。

高校生 知らない、ということを知 学旅行の風 った。友達に「外国人は皆 景。大きな 同じ顔をしてるよ」と言わ 駐車場に入 れて、不思議に思ったもの ってきた十 である。

何台ものバ 大学生になると、髪の色や服装はそれぞれ違っ てる高校 てるが、たまにカルマノ 生は、同じ ・ゼミに入ってくる「名古屋 形の黒い 屋敷」でさえ個人を認識で

て経験している私自身によ るところが大きい。方向音 痴である私にとって、何処 の駅から出ても、東京の町 並みは同じに見える だ。ドイツ語を通して社会 的環境を経験した私は、 「先輩後輩」の発想につい て行けない。

同じように見える表面の 下に潜んでいる違い、違う 表面の下にある共通点を認 識するのは大事であるが、 それだけではない。面を取 るとそれぞれの人間は見え てるが、面をかぶって いるからこそ怪我をせずに剣 道の試合もできるといっても のである。